

公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金 成果報告書

代表者氏名	芳賀 道匡	所属	日本大学
研究会等名称	公益社団法人日本心理学会ソーシャル・キャピタル研究会		
成果概要	<p>1) 参加人数（会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください）</p> <p>会員 5 名（うち認定心理士 名） 非会員 3 名（うち認定心理士 名）</p> <p>*ただし、日本心理学会第 82 回大会公募シンポジウムにおいて研究会を開催し、シンポジウムの来客および質疑の参加者はここに含まなかった。目測では、シンポジウムの質疑への参加者は 6 名、観覧者は 30 名以上いた。</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 （実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください）</p> <p>申請時に、研究会を開くことで期待される成果を 2 点あげていた。まず 1 点目に、心理学者に SC 理論をより広めたり、理解を深める契機を作ることであった。SC 理論の出自は他の領域にあり、十分に周知されていないため、心理学者の間で概念や理論に対する理解の違いが大きい可能性があったが、本研究会を通してこの点が明らかにされ、議論が行われた。この議論の収束はまだついていないが、今年一年の結論として、SC 研究に心理学の理論を接続することで、心理学の理論の活性化を図ることができるため、積極的な議論を行う必要があるという結論が得られた。</p> <p>一方、申請時にもう 1 点目の期待される成果として、一般の人々への波及効果をあげていた。こちらについては、学会シンポジウム以外の機会を設けるなどを通して、一般の人々が参加しやすいよう工夫する必要があると考えられる。さらに、研究集会で集まった研究者を中心に書籍を執筆するなど、研究集会で集まる研究者ネットワークを核として、様々な情報媒体から一般の人々へアウトリーチをかけていく必要があるだろう。その経過について知るためにも、今後は研究会参加者の人数のチェックをしっかりと行う所存である。</p>		

研究集会参加者リスト

＜研究会名＞				
公益社団法人日本心理学会 ソーシャル・キャピタル研究会				
研究集会開催日： 平成30年 9月 26日(水)				
	氏名	所属	会員	認定 心理士
1	芳賀 道匡	日本大学文理学部	○	
2	坂本 真士	日本大学文理学部	○	
3	高木 大資	東京大学大学院医学系研究科・医学部		
4	福島 慎太郎	東京女子大学現代教養学部		
5	金子 迪大	東洋大学人間科学総合研究所	○	
6	浦 光博	追手門学院大学心理学部	○	
7	稲葉 陽二	日本大学法学部		
8	島田 貴仁	科学警察研究所	○	
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				

(様式5)

平成31年 3月 31日

日本心理学会研究会

平成30年度会計報告書

研究会名称 公益社団法人日本心理学会ソーシャル・キャピタル研究会

研究会番号 18024

助成金額 ¥40,000

年 月 日	項 目	金 額
2018年9月26日	講師謝礼（1名）	¥0
2019年4月1日	返金（日本心理学会）	¥40,000

支出合計 ¥40,000